

## INDEX

第35回通常総会ならびにシンポジウム開催のお知らせ（第二報）.....	02
日本教育工学会2019年秋季全国大会のお知らせ（第二報）.....	03
2019年度 第7回日中教育工学フォーラム（第二報）.....	09
国際学会 ICOME 開催のご案内 日本教育メディア学会（JAEMS）.....	11
コミュニティ構築企画（第一報）.....	12
研究会の開催案内「教育の情報化と授業研究／一般」.....	13
研究会の発表募集「高等教育におけるFD・SD・IR・学修支援／一般」.....	16
研究会の開催報告「ICTを用いた学習環境の構築／一般」.....	17
2018年度 大学教員のためのFD研修会の報告.....	18
SIG-06 協調学習・学習科学『学習科学ハンドブックWebinar』第4, 5回開催報告 .....	19
SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育 第12回研究会『新学習指導要領におけるメディア・リテラシー 教育の理論と実践』開催報告 .....	20
SIG-13 STEM教育 第1回研究会『STEM教育』開催報告 .....	21
SIG-02 教師教育・実践研究 第7回研究会『国際的な文脈で教師教育を考える』開催報告 .....	22
SIG-11 情報教育 第14回研究会『情報教育調査の結果を踏まえた情報教育の方向性について』 開催報告 .....	23
SIG-13&14 合同ワークショップ『ロボット教材を活用したSTEM教育とプログラミング教育』 開催報告 .....	24
SIG-03 教育・学習支援システムの開発・実践 第11回研究会『教育・学習支援システムの 開発・実践に関する共同研究創出ワークショップ』開催報告 .....	25
SIG-04 教育の情報化 第8回ワークショップ・公開授業『教員養成・教師教育におけるプログラミング教育』 開催報告 .....	26
SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育 第13回研究会『先行研究の概念と今後の研究課題（3）』 開催報告 .....	27
SIG-02 第8回研究会『学校間ネットワークを基盤とした授業研究の可能性』開催案内 .....	28
日本教育工学会第17期第15回理事会議事録 .....	29
新入会員 .....	31
学会日誌 .....	32

## 第35回通常総会ならびにシンポジウム開催のお知らせ（第二報）

日時 2019年06月29日（土）10:00～16:00（受付09:30から）  
会場 東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 デジタル多目的ホール  
東京都目黒区大岡山 2-12-1 <http://www.titech.ac.jp/>  
○東急大井町線 大岡山駅 徒歩1分 ○東急目黒線 大岡山駅 徒歩1分

### 10:00～11:45 ラウンドテーブル「JSET Vision 2030 の提案に向けて」

本学会への社会的なニーズや期待が大きくなっている今日、教育工学はどのように社会に貢献できるのだろうか。また、学会が果たすべき役割は何だろうか。会員に情報提供をしたり、議論をしたりするためには、どのような学会運営が必要であろうか。本ラウンドテーブルでは、学会の現状について報告するとともに、これから約10年間で本学会がどのような取り組みを進めていくべきなのか議論を行う。

司会進行役：美馬のゆり（副会長 はこだて未来大学）

登壇者：将来構想ワーキングメンバーから数名

### 12:00～13:00 総会

- 第1号議案 2018年度（2018年04月01日～2019年03月31日）  
事業報告及び収支決算承認の件  
第2号議案 2019年度（2019年04月01日～2020年03月31日）  
事業計画案及び収支予算案承認の件  
第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任  
第4号議案 名誉会員候補者の推薦について

2

### 14:00～16:00 シンポジウム「SDGs 時代の教育工学：すべての子どもたちに授業を提供するために」

国連が提唱した「持続可能な開発目標：SDGs（Sustainable Development Goals）」は、先進国を含む国際社会全体が2030年までに達成すべき目標を掲げたものである。17の目標のうち、今回のパネルディスカッションでは、「4. 質の高い教育をみんなに」に着目し、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒や、外国人就業者数の増加に伴い、増えつつある外国にルーツを持つ日本語指導が必要な児童生徒が、通常の学級で学ぶためにはどのような教育支援が必要なのか、そして教育工学はどのような貢献ができるのかを議論する。

#### 1. 基調講演

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 俵幸嗣  
「特別支援教育に関する文部科学省の取り組み」

#### 2. パネルディスカッション

- 進行役：今井亜湖（岐阜大学）  
登壇者：  
別府哲（岐阜大学）  
「通常学級において学習に困りを抱えている子への教育支援—発達心理学の視点から—」  
福本徹（国立教育政策研究所）  
「通常学級において学習に困りを抱えている子への教育支援—教育工学の視点から—」  
若林秀樹（宇都宮大学）  
「通常学級において日本語指導を必要とする子への教育支援—教育現場の視点から—」  
今井亜湖（岐阜大学）  
「通常学級において日本語指導を必要とする子への教育支援—教育工学の視点から—」

# 日本教育工学会 2019 年秋季全国大会のお知らせ（第二報）

大会 Web サイト : <https://www.jset.gr.jp/taikai35/>

日本教育工学会 2019 年秋季全国大会を、下記のように名古屋国際会議場において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

## 1. 開催期日・会場

期日：2019 年 09 月 07 日（土）～08 日（日）（今年度から 2 日間開催となります）

会場：名古屋国際会議場 〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 1 号

<https://www.nagoya-congress-center.jp/>

（会場までのアクセス：<https://www.nagoya-congress-center.jp/access/>）

最寄り駅は、地下鉄名城線西高蔵駅もしくは、地下鉄名港線日比野駅です。自家用車でのご来場の場合、駐車場が満車になることもありますので、ご留意ください。なお、宿泊については「**17. 宿泊について**」をご参照の上、ホテルの確保にご注意下さい。

## 2. 大会日程

09 月 07 日（土）	09 月 08 日（日）
9:00～17:00 受付 9:30～10:40 一般研究発表 1（ポスター発表） 企画セッション 1 10:50～12:00 一般研究発表 2（ポスター発表） 企画セッション 2 チュートリアル 1 12:00～13:00 ランチセッション 13:20～14:10 全体会 14:20～15:20 キーノート 15:30～17:30 シンポジウム 18:00～ 懇親会	8:45～16:00 受付 9:00～10:10 一般研究発表 3（ポスター発表） 企画セッション 3 President Talk① 10:20～11:30 一般研究発表 4（ポスター発表） 企画セッション 4 President Talk② 11:30～12:30 企画セッション 5 12:30～13:40 一般研究発表 5（ポスター発表/日英併記） 企画セッション 6 チュートリアル 2 13:50～14:50 キーノート 15:00～16:30 シンポジウム
9:30～17:30 企業展示	9:30～13:50 企業展示

## 託児所の提供について

今大会においても、大会期間中、託児所を提供する予定です。詳細は検討中です。

## 昼食について

会場周辺は飲食店が少ないため、大会の参加申込時にお弁当の申込を受け付ける予定です。詳細は検討中です。

## 3. 今大会での注目点・注意点

- 今大会でも2回のチュートリアルセッションを開催します。1日目の午前は本学会に初めて参加する方を主な対象としたセッション、午後は本学会論文誌における査読者の心得に関して、編集委員会が主催するセッションを行います。
- 昨年度と同様に、国際交流委員会による「President Talk」を実施します。本セッションは、本学会と交流のある海外の学会から来賓をお迎えして、海外の研究の最新の動向について話題提供していく予定です。
- 秋季全国大会の一般研究発表は、ポスター発表のみです。ポスター発表者は、発表セッションの時間帯は、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。
- また、一般研究発表（ポスター発表）のポスターは日本語と英語の併記で作成することもできるようになりました（従来通り日本語のみで作成することもできます）。
- 今大会より、講演論文集冊子の販売は致しません。
- 講演論文集は前回大会に引き続き、USBメモリ版になります。
- プログラム集は前大会に引き続き、受付にて印刷した冊子体をお渡しします。
- 参加費は、USBメモリ版の講演論文集および、プログラム集を含んだ価格となります。
- 企業ランチセッションが9月7日（土）の12:00から行われます。企業ブースへの出展企業からプレゼンテーションをして頂きます。参加者には、先着150名分（2会場合計）のランチ（お弁当）を無償提供いたします。

## 4. キーノート

初日のキーノートについては、海外からゲストスピーカーにお越し頂く予定で、現在調整をしています。2日目のキーノートについては、AIをテーマとしたものになる予定です。

## 5. シンポジウム

キーノートの内容と関連したシンポジウムを実施する予定で、内容を検討しています。

## 6. President Talk

昨年度と同様に、海外の関連学会の会長等にお越しいただき、各国の動向などについてお話しして頂く予定です。

## 7. チュートリアルセッション

本学会にはじめて参加する方のために、1日目にチュートリアル1を行う予定です。本学会の活動内容について、たとえば教育工学選書やSIG活動などの紹介を通して、本学会が対象とする学術分野や研究のテーマ、これまでの研究知見の概要を会長およびSIG委員長が説明します。2日目のチュートリアル2では、本学会論文誌「日本教育工学論文誌」の執筆・査読について、編集委員会からお話し頂く予定です。

いずれのセッションも大学院生や現職教員、教育工学に関する研究に取り組もうとする研究者の方々を対象とします。

## 8. 一般研究（口頭発表とポスター発表）

秋季全国大会の一般研究発表は、ポスター発表のみです。ポスター発表者は、発表セッションの時間帯は、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。また、前回の大会よりポスターは日本語と英語の併記で作成することもできるようになりました。従来通り日本語のみで作成することもできます。ただし、日本語と英語の併記で作成したポスターの内容を発表する場合は、発表日は09月08日（日）の一般研究発表5の時間帯に限られますので、ご注意ください。

開催予定のセッションは以下の通りです。

- (1) 高等教育の教育方法
- (2) FD, IR
- (3) 教師教育
- (4) 授業研究
- (5) 教育・学習支援システムの開発・実践
- (6) 学習コンテンツ開発・評価
- (7) 遠隔教育、遠隔学習
- (8) 反転授業
- (9) eポートフォリオ
- (10) 情報教育
- (11) 情報モラル
- (12) 教科指導におけるICT活用
- (13) メディア・リテラシー

一, メディア教育 (14) e-Learning (15) ゲーム学習 (16) オープンエデュケーション (17) 認知と学習 (18) 協調学習, 学習科学 (19) 教育評価, データ解析 (20) 授業設計, 授業実践 (21) インストラクショナルデザイン (22) ワークショップ (23) 語学教育, 國際理解 (24) 特別支援教育 (25) 生涯学習 (26) 企業内教育 (27) 看護教育, 福祉教育 (28) 保育, 乳幼児教育 (29) 質的研究 (30) 教育改革, 学習指導要領改訂 (31) 共同, 連携, 合意形成 (32) その他

## 9. 企画セッション

内容は検討中です。詳細は後日お知らせいたします。

## 10. 発表時間

発表時間は以下の予定です。

[一般研究] <ポスター発表>70分 (昨年のポスター発表より, 10分短くなっています)

## 11. 発表内容の撮影, 録音, 録画等について

発表者, 参加者の双方に次のことをお願いいたします。

1. 発表者は参加者が発表内容を撮影, 録音, 録画する可能性のあることを承知の上で発表して下さい。参加者に記録されると問題が生じる可能性がある場合には, 発表者自身が参加者に記録しないよう指示して下さい。
2. 撮影, 録音, 録画したものについて, 日本国の著作権法が規定している範囲以外で利用される場合は, 発表者の許可をとって下さい。
3. 大会スタッフが記録用写真やニュースレター用写真を撮影します。撮影を拒否される方は, 記録係のスタッフに撮影しないようお伝え下さい。

## 12. 大会までのスケジュール

05月14日	火	一般研究発表 申込・原稿(2ページ) 提出開始 参加費事前送金開始
06月18日17時	火	一般研究発表 申込・原稿(2ページ) 提出締切 ※17:00が最終締切時刻となります。
06月25日17時	火	発表者の参加費等事前送金期限(クレジットカード払い, 振込・振替共に)
07月30日	火	発表者以外の参加費等事前送金期限(クレジットカード払い, 振込・振替共に)

\*提出原稿の差し替え期間を廃止しました。

## 13. 発表申込等

### (1) 発表者の資格

- ・[発表者]は, 本学会の会員に限ります。ただし, 会員以外が連名者となることは, 差し支えありません。ここでいう[発表者]とは, ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく, 大会当日発表される方です。
- ・[発表者]が年会費を納入されていない場合は, 発表申し込みを行えません。また, [発表者]には, 事前に大会参加費を送金して頂くことになっております。なお, 大会企画委員会が特に発表を依頼した場合はこの限りではありません。
- ・維持会員に所属する方は, 個人会員として入会していくなくても最大3名まで発表ができます。ただし, 大会参加費はお支払い頂きます。該当する発表者は, 06月17日(月)までに大会企画委員会(a-taikai2019@jset.gr.jp)にご連絡下さい。この期限を過ぎた後の受付はできませんので, ご注意下さい。

### (2) 発表申込件数の制限

- ・会員は, 一般研究で1件を発表者として申し込むことができます。
- ・発表者でない連名者の件数には, 制限はありません。

### (3) 一般研究の発表申込方法

- ・大会Webサイトの案内に従って, 発表申し込み, 原稿提出を行って下さい。  
原稿の提出締切は, 06月18日(火)17:00です。

- ・発表日時の希望には応じられません。

#### (4) 原稿ファイルの作成と提出

- ・書式は、大会Webサイトに掲載されるテンプレートをご参照下さい。原稿は、A4サイズで2ページです。1ページや3ページ以上のものは受け付けません。
- ・講演論文集の電子ファイルは、本文中の文字列が検索できる方法で製作します。そのため、原稿ファイルはPDF/X-1a形式で提出して頂きます。
- ・その他の原稿ファイル作成時の注意点
  1. PDF作成時に、図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります。作成したPDFを印刷してチェックしたのち、投稿して下さい。
  2. PDFにフォントが埋め込まれているか自信がない場合には、一般的なフォント、文字コードを利用して下さい。文字コードによっては、検索できない場合もあります。
  3. 提出して頂いたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、大会企画委員会では行いません。

#### (5) その他、発表に関するお願いや注意点

- ・原稿は、あるレベルで完結した内容であることを求めます。「結果は当日会場で発表する」等の書き方はしないで下さい。大会企画委員会で判断し、修正を求める場合があります。
- ・類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。
- ・講演論文集の発行日は、事前申込者がダウンロード可能になる日です。
- ・提出された原稿は、学会がWebサイト等に掲載することを許諾して頂きます。

### 14. 大会の参加申込及び受付等について

大会に参加を希望される方は、以下の手順に従って申し込みをお願いします。

6

#### (1) 参加費等について

参加費は、以下のとおりです。発表者の事前支払期限は、クレジットカード払いの場合も払込・振替の場合も06月25日(火)17:00です。発表者以外の方の事前支払期限は、クレジットカード払いの場合も払込・振替の場合も07月30日(火)です。

参加費 正・准会員 (名誉会員は無料)	7,000円 (当日は9,000円)
学生会員	2,000円 (当日は4,000円)
非会員	9,000円 (当日は11,000円)
非会員の学生	4,000円 (当日は6,000円)
懇親会費	4,000円 (当日は5,000円)
講演論文集代 (USBメモリ版)	4,000円

参加費には、プログラム冊子およびUSBメモリ版講演論文集代を含みます。参加費には、昼食費等の食事代は含まれておりません。企業ランチセッションは、企業からの協賛費用から先着150名分(2会場合計)のお弁当を提供するもので、参加費とは無関係です。

事前支払期限以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払い頂きます。なお、事前支払期限までに発表者の参加費の納入が確認できない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意下さい。

お支払い後、07月30日(火)までのキャンセルについては、[大会企画委員会\(a-taikai2019@jset.gr.jp\)](mailto:a-taikai2019@jset.gr.jp)までご連絡下さい。送金なさった分を次年度の年会費に振り替えることができます。返金はできません。非会員の場合は入会をして頂くことになります。この日以降は、ご連絡頂いても、原則として振替等ができないことをご了解下さい。

大会参加費を事前に送金し、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかつた場合には、その旨を[大会企画委員会\(a-taikai2019@jset.gr.jp\)](mailto:a-taikai2019@jset.gr.jp)までご連絡下さい。プログラム冊子とUSBメモリ版講演論文集をお送りします。

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています。学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい。

## (2) 事前の送金と参加登録について

講演申し込み、事前参加申し込みのシステムには、大会Webサイト(<https://www.jset.gr.jp/taikai35/>)からアクセスして下さい。支払い方法は、「①クレジットカード」「②払込・振替」「③当日現金で支払い」の3つから選択できます。

### ①クレジットカードによる支払い

- 申し込み後に、クレジットカードの情報を入力する画面に進めます。

### ②払込・振替

- 申し込み時に表示される金額と送金内容を、郵便局に備え付けの払込取扱票に記入して、郵便局の窓口から送金して下さい。必ず会員番号をご記入下さい。

### ③当日現金で支払い

- クレジットカード、振込・振替による事前送金を締め切った後に選択できるようになります。
- 事前参加登録をして頂きますと、会場での受付が簡便になります。
- 登録内容が記入された電子メールが届きますので、それを印刷して、当日、会場受付にお出し下さい。この場合、当日参加票に記入する必要はありません。

## (3) 参加証、領収書について

- クレジットカードによる支払い、あるいは払込・振替で事前送金された参加者には、大会当日、受付で「大会参加証（名札用）」、「領収書」をお渡しします。電子メールでの送付はありませんので、ご注意下さい。

## (4) 講演論文集のダウンロードについて

- 事前申し込みされた方は、大会初日の約1週間前（08月30日（金）を予定）から講演論文集をダウンロードしていただけるようになります。

## 15. 会場の設備について

ポスター発表の会場では、ポスター掲示用パネルを用意する予定です。また、電源は用意されませんので、それを前提にした発表準備をお願いいたします。

## 16. 企業の展示について

大会期間中の07日（土）、08日（日）の2日間、会場内展示ブースにて企業展示を行います。また、07日（土）の12:00からは、出展企業による企業ランチセッションも行います。出展企業による各8分程度のプレゼンテーションを行い、参加者には、先着150名分（2会場合計）のランチ（お弁当）を無償提供いたします。出展、ならびに大会プログラム等への広告協賛を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ（tenji2019@jset.gr.jp）へお問い合わせ下さい。

なお、出展・広告申込の第1次締切は、05月31日（金）です。

## 17. 宿泊について

本大会については、学会や委員会はかかわらない形での外部業者による学会期間中の宿泊施設の斡旋をご案内します。詳細は大会Webサイト(<https://www.jset.gr.jp/taikai35/>)を参照してください。

## 18. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせ下さい。

大会企画委員会（秋季全国大会） 問い合わせ用電子メールアドレス：[a-taikai2019@jset.gr.jp](mailto:a-taikai2019@jset.gr.jp)

委員長	寺嶋 浩介 (大阪教育大学)
副委員長	姫野 完治 (北海道教育大学)
委員 (五十音順)	金子 大輔 (北星学園大学) 小林 由昭 (内田洋行) 近藤 秀樹 (九州工業大学) 坂本 將暢 (名古屋大学) 瀬戸崎 典夫 (長崎大学) 伏木田 稚子 (首都大学東京) 古田 紫帆 (大手前大学) 美馬 のゆり (公立はこだて未来大学) 鈴木 克明 (熊本大学)
担当副会長	
アドバイザ	

## 2019年度 第7回日中教育工学フォーラム（第二報）

07月13日～15日 中国 寧夏大学（最寄り空港/ 銀川空港）にて開催

日中教育工学フォーラムは、2年に一度、日本、中国交互に開催する国際会議です。日中の研究者がお互いの知見を共有し、連携を取りながら東アジアにおける教育工学の在り方を論議する会議であり、日中会員の交流の場、共同研究の開始の場ともなります。皆様のご参加をお待ちしております。

### 1. テーマ 日中教育工学と未来教育（仮題）

- 1 日時 07月13日（土曜日）～15日（月曜日 海の日）
- 2 会場 寧夏大学（Ningxia University）
- 3 宿舎など中国側で手配予定 宁夏大学国际交流中心(宁大假日酒店) 6,000円程度
- 4 フォーラムの概要
  - 4-1 4つの分科会（予定：日本語・中国語通訳）
    - 1 教育の情報化推進（政策、環境、教師教育）
    - 2 情報教育カリキュラム
    - 3 教科指導におけるICT活用
    - 4 STEM
  - 4-2 一般英語セッション（課題自由発表、一人15分程度）

### 2. 現地スケジュール

	朝	午前	昼食	午後	晩
13日 土曜日		空港到着、晚餐会		空港到着、 案内者名は後日連絡	懇親会： 18:00～20:00 現地指定ホテル
14日 日曜日	朝食： ホテルにて	8:00：バスにて会場へ向く 8:30～：寧夏大学責任者との面会 9:00～：開幕式 9:30～：ティータイム 9:50～：基調講演（一） 10:50～：基調講演（二）	昼食	13:00：分科会など 15:00：ティータイム 15:20：分科会など	夕食： 場所：食堂 ★食後、宿泊地に戻る
15日 海の日	朝食： 現地指定ホテル	8:00：バスにて会場へ向く 8:30～10:30：分科会など 10:50～11:50：一般発表	昼食	一般英語発表など（英語発表など）	

### 3. 文化交流

#### オプショナルツアー紹介

日			
16日 Aコース	朝食： ホテルにて	寧夏郊外 ホテルからバスで出発 昼食付	寧夏近郊 草原ツアーハイキング 西安ツアーハイキング 16日夜 西安着
17日 Bコース	朝食： ホテルにて	西安地域 朝ホテル発 兵馬俑コース出発	世界遺産 兵馬俑（へいばよう）、城壁など観光 楊貴妃华清池 西安城牆→华清池→兵馬俑、片道50キロ ホテル着
18日	朝食： ホテルにて	ホテル 荷物整理 空港へ	空港から日本へ18日 各自手配（基本ルート、東京→銀川 西安→東京）

現地イメージ



**4. スケジュール**

4月下旬 申し込み受付サイト公開予定 サイトより 自己紹介 アブストラクト提出で受付終了

オプショナルツアーご希望の方もサイトより申し込みください。

**申し込み締め切り 05月31日（金）**

当日までに PowerPoint など発表資料をご用意ください。

発表者プロフィール（日本語・英語どちらでも可）写真 略歴 研究分野など（研究論文など）

A4半ページ

アブストラクト（日本語・英語どちらでも可）A4半ページ程度 1枚以内

10



**5. その他**

宿泊予定ホテル 宁夏大学国际交流中心(宁大假日酒店)

Ningxia University International Exchange Center (Ningxia University Holiday Hotel)

問合せ先 国際交流員会 日中フォーラム担当  
2019forum@jset.gr.jp

国際交流委員会

---

## 国際学会 ICoME 開催のご案内 日本教育メディア学会 (JAEMS)

---

ICoME2019 のウェブサイトが立ち上がり、受付が開始となりました。  
韓国や中国の ICT、教育メディア研究の動向を理解する機会となります。  
また、Roundtable Session が用意されており、大学院生や学部生が英語で発表できるよい機会となります。奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

日時：2019年07月23日（火）～25日（木）

場所：Shenzhen Kylin Villa, 深セン市、広東省、中国

ホスト：Southern University of Science and Technology, International Centre for Higher Education Innovation under the auspices of UNESCO

テーマ：Artificial Intelligence + Education

※教育メディアに関するその他の発表も広く募集しています。

### プログラム

07月22日（月）：Registration

07月23日（火）：Opening Ceremony / Keynote speech/Guest Speech/Concurrent Speech

07月24日（水）：Keynote speech/Guest Speech/Panel Discussion/Round Table

07月25日（木）：Keynote speech/Panel Discussion, Closing Ceremony

11

ウェブサイト：<http://icome2019.sustech.edu.cn/>

### 学会までのスケジュール【厳守】

- ・アブストラクトの提出締切：2019年05月30日
- ・原稿提出締切：2019年07月10日

### 参加費

- ・Student attendees : 400 元(RMB)
- ・Member attendees : 800 元(RMB)
- ・Non-member participants : 1200 元(RMB)

※Student attendees は、学会の学生会員のみで、非会員の学生は Non-member participants となります。

## コミュニティ構築企画（第一報）

### ■趣旨

ここ10年間、本学会を取り巻く環境は大きく変化しております。特に、教育工学系の大学院コースは減少・縮小していく傾向にあり、学部生や大学院生、現職教員、企業の方々を緩やかにつなげる共同体の形成や、相互に学びあう場として、本学会が果たす役割は大きくなっています。そこで、本企画では、教育工学に興味を持つ方々のコミュニティを活性化するため、まず07月末に開催されるJSET研究会とあわせて合宿形式での懇親会ならびにワークショップを開催します。

懇親会では、これまで教育工学に興味を持っていたけれども、実践者や研究者と交流が少なく、研究や進路に関する相談などをする機会を得たい方、教育実践をしながら研究をしている方が、教育工学研究者らと交流する場をつくります。インフォーマルに研究の相談や進路の相談をされたい方は、ご参加ください。

研究ワークショップでは、学部生・大学院生、現職教員、教育に関わっている実践者、セカンドキャリアとして研究者を目指す社会人などを対象に、教育工学に関する研究について議論します。企画担当者らが、教育工学的に研究するとはどういうことなのかを簡単に説明した後、まだ研究になっていないシーズ（種）や、うまく進んでいないお困りネタなど、参加者が持ち寄ったテーマでグループを構成し、解決方法を検討していきます。

教育工学に興味を持ち、研究を志す学生、院生、社会人、企業人の皆様方にご参加頂きたいと考えております。ご家族での参加も大歓迎です。まずは、日程等のご案内をさせていただきます。

12

- 日程：2019年07月27日（土） 懇親会（JSET研究会終了後）  
07月28日（日） 研究ワークショップ（10:00～12:00）

- 会場：宿泊施設（壱湯の守）にて行います。懇親会のみの参加も可能です。

（懇親会会費：5,500円を予定）

- 宿泊施設：奥道後温泉 壱湯の守 <https://www.okudogo.co.jp/>

宿泊代（1泊朝食付き）は、ツインのシングルユースは14,190円（税・入湯税込）、ツイン（2名1室）は1人当たり10,950円（税・入湯税込）となります。なお、部屋タイプは、ツインのみのため、ツインのシングルユース、もしくはツインでの利用のみとなります。会場から宿泊施設（壱湯の守）までは無料バスにて送迎いたします。JSETのWebサイトからリンクされた申込ページで、参加申し込みと同時に受付け、会場・宿泊担当が取りまとめて予約いたします。宿泊予約の際には、必ず部屋タイプ（ツインのシングルユースまたはツイン）をご指定下さい。なお、確保している部屋数に限りがございますので、定員になり次第、締め切らせていただきます。壱湯の守での宿泊を希望されない方は、ご自身で松山市近隣のホテルをご予約ください。

- 問合先：[jset.kikaku@gmail.com](mailto:jset.kikaku@gmail.com)

企画担当：早稲田大学 森田裕介

宿泊・会場担当：愛媛大学 仲道雅輝

# 日本教育工学会研究会 <http://www.jset.gr.jp/study-group/>

## 研究会の開催



研究会  
2019

- テーマ 教育の情報化と授業研究/一般  
●日 時：2019年05月18日（土）  
●会 場：鹿児島大学 郡元キャンパス 第二講義棟（アクティブラーニングプラザ）  
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号）  
●担 当：山本朋弘 (tyamamot@edu.kagoshima-u.ac.jp)

## プログラム

発表時間：発表1件につき24分（発表19分、質疑5分）

受付（2階 講義室4）、A会場（2階 講義室5）B会場（3階 B教室）C会場（3階 C教室）

10:00-10:05 諸連絡

10:05-12:10 午前の部

- A1) 小学校算数科・社会科の学習者用デジタル教科書における操作ログから見た活用実態に関する一考察  
中川哲（東北大学大学院），殿岡貴子，清遠和弘（東京書籍株式会社），早津政和（株式会社Lentrance），堀田龍也（東北大学大学院）

- A2) 発展学習としての小学校算数におけるプログラミング教育の導入と授業モデルの構築  
中西英（宮崎市立本郷小学校），添田佳伸（宮崎大学），木根主税，東迫健一，後藤洋司（宮崎大学大学院），中別府靖（宮崎大学教育学部附属小学校），山本由紀（宮崎市立本郷小学校），新地辰朗（宮崎大学）

- A3) 小学校体育学習でのタブレット端末持ち帰りによる映像視聴の効果の比較分析  
城井順一，坂本博紀（熊本県高森町立高森中央小学校），山本朋弘（鹿児島大学大学院）

- A4) PowerPointによるタブレットPC用理科教材の作成と活用  
濱崎利也（福岡教育大学大学院），古川健一（福岡教育大学）

- A5) 新学習指導要領における教科等・校種ごとの情報活用能力の特徴整理  
泰山裕（鳴門教育大学大学院），堀田龍也（東北大学大学院）

- B1) 文系大学生の基礎的な計算力育成における教科の再構成と指導経過の可視化  
皆川雅章（札幌学院大学）
- B2) ブレンド型授業の導入に向けたプロトタイピングの試行とチェックリストの開発  
杉浦真由美（札幌医科大学）
- B3) オンライン大学の授業におけるレポート再提出方式の実践とその効果  
石川奈保子（早稲田大学），阿部真由美（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）
- B4) ソーシャル・ラーニング活動が学習の動機づけに与える効果についての分析  
巻下由紀子，西出崇（京都外国语大学），村上正行（大阪大学）
- B5) グループワークについての態度はグループワーク中心の授業後にどう変化するか  
向後千春（早稲田大学），阿部真由美（早稲田大学大学院）

- C1) 教師のレジリエンス形成を支援するフレームワークの検討  
深見俊崇（島根大学），木原俊行（大阪教育大学），小柳和喜雄（奈良教育大学），島田希（大阪市立大学），廣瀬真琴（鹿児島大学）
- C2) 若い教師の「見取り」の実際とその改善の視点  
小川義一，藤村裕一（鳴門教育大学大学院）
- C3) 「学校ver.3.0を目指した学科間連携」を行うための教職員の意識調査と分析  
渡部洋平，藤村裕一（鳴門教育大学大学院）
- C4) 採用・研修側で求めている人材像の特徴と教員養成学部及び教職大学院との比較  
谷塚光典（信州大学）
- C5) 実務家教員が教育実践研究を推進する能力を高めるためのプログラムの試行  
木原俊行（大阪教育大学），深見俊崇（島根大学），坂本將暢（名古屋大学），島田希（大阪市立大学），古田紫帆（大手前大学）

13:05-13:10 委員会挨拶・諸連絡

13:10-15:15 午後の部①

- A6) ICT 研修ファシリテーター養成講座における学習観と研修設計の関係に着目した分析  
 佐藤和紀（常葉大学）, 泰山裕（鳴門教育大学大学院）, 楠本誠（松坂市教育委員会）,  
 堀田龍也（東北大学大学院）, 大本秀一（日本放送協会）
- A7) 機械学習を体験する中学校技術・家庭科における情報科学実験についての考察  
 武田大典（小林市立三松中学校）, 新地辰朗（宮崎大学）, 白井昇太（都城工業高等専門学校）
- A8) 画像とワークシートを活用した大学の観光地理の授業実践と学生による評価  
 松村智恵（早稲田大学大学院）, 向後千春（早稲田大学）
- A9) 情報通信方式の科学的特徴を発見的に理解する情報科の授業の開発  
 大石智広（神奈川県立生田東高等学校）, 望月俊男（専修大学）
- A10) 日本の中等教育・高等教育におけるコンピュータサイエンスに関する学習の系統性の整理  
 小田理代（東北大学大学院）, 登本洋子（桐蔭学園高等学校）, 堀田龍也（東北大学大学院）

- B6) micro:bit が配布された小学校 200 校を対象としたプログラミング教育の実施状況に関する調査  
 板垣翔大（大阪教育大学大学院）, 佐藤和紀（常葉大学）, 中川哲（東北大学大学院）, 磯川祐地（上越教育大学大学院）, 山本朋弘（鹿児島大学大学院）, 中野博幸（上越教育大学大学院）,  
 久保田善彦（玉川大学大学院）, 梅田成二（ウインドウズ デジタルライフスタイル コンソーシアム）, 堀田龍也（東北大学大学院）
- B7) IoT 教材を活用した小学校プログラミング教育の講義に対する大学生の意識分析  
 磯川祐地（上越教育大学大学院）, 佐藤和紀（常葉大学）, 山本朋弘（鹿児島大学大学院）, 遠藤みなみ, 堀田龍也（東北大学大学院）
- B8) 高等学校商業科におけるプログラミング教育の考察と他教科への活用  
 田村武志, 藤村裕一（鳴門教育大学大学院）
- B9) IoT 教材を用いた授業を体験した大学生の小学校プログラミングへの理解深化に関する一考察  
 山本朋弘（鹿児島大学大学院）, 佐藤和紀（常葉大学）, 磯川祐地（上越教育大学大学院）,  
 遠藤みなみ, 堀田龍也（東北大学大学院）
- B10) 幼保系人材育成課程から見た算数指導とプログラミング教育に関わる一考察(5)  
 波多野和彦（江戸川大学）中村佐里, 遠藤敏喜（自由学園）, 三尾忠男（早稲田大学）

- C6) 学習支援方略に基づいて行動変容を促す TA 支援システムの提案  
 江木啓訓, 横山裕紀, 今村瑠一郎（電気通信大学大学院）
- C7) 英語学習に対する「好み」の構造と学習行動への影響  
 阿部真由美（早稲田大学大学院）, 向後千春（早稲田大学）
- C8) 小 1 プロブレム解消に向けた私立幼稚教育機関の協働体制構築に関する研究  
 黒田ゆり, 藤村裕一（鳴門教育大学大学院）, 黒田みゆき（日南幼稚園）
- C9) 児童生徒が情報モラルを自己評価するための検定教材の改善に関する教員・学生に対する意識調査  
 新田梨乃（上越教育大学大学院）, 佐藤和紀, 鈴木美森（常葉大学）, 吉野真理子（広島県教科用図書販売株式会社）, 堀田龍也（東北大学大学院）
- C10) 小学校第 5 学年の社会科教科書の産業学習における情報技術の社会的影響の内容の変遷についての分析  
 佐藤正寿（東北大学大学院／東北学院大学）, 斎藤玲, 堀田龍也（東北大学大学院）

15:30-17:10 午後の部②

- A11) 中学校と商業高校の教育連携によるビジネスモデル・商品開発と、その担い手育成モデルの構築  
 世良清（三重県立津商業高等学校）, 渥美勇輝（鈴鹿市立平田野中学校）
- A12) 1 人 1 台端末を活用した小学校の授業における児童の操作の特徴  
 渡邊光浩（鹿児島女子短期大学／東北大学大学院）, 堀田龍也（東北大学大学院）
- A13) 中学校外国語科（英語）でのタブレット端末持ち帰りによる家庭学習と授業の循環に関する検討  
 新里美香代（鹿児島市立錫山小中学校）, 山本朋弘（鹿児島大学大学院）
- A14) タンジブル人形劇によるマイクロティーチングにおける学生の発話に関する分析  
 脇本健弘（横浜国立大学）, 佐々木博史（京都大学）, 平山涼也, 望月俊男（専修大学）, Brendan Eagan（ウィスコンシン大学マディソン校）, 結城菜摘（専修大学）, 舟生日出男（創価大学）,  
 久保田善彦（玉川大学）, 鈴木栄幸（茨城大学）, 加藤浩（放送大学）

- 
- B11) 歴史学習からの類推に基づく授業研究のあるべき考察の視点と模擬授業ゲームへの示唆  
松田稔樹（東京工業大学／江戸川大学）
- B12) 平成 29 年告示小学校学習指導要領解説国語編における情報活用能力に関する記述の整理の試み  
荒川詠美，佐藤和紀，手塚和佳奈（常葉大学），泰山裕（鳴門教育大学大学院），堀田龍也（東北大学大学院）
- B13) 事前検討会重視型授業研究における持続的な取り組みに関する検討－立ち上げ期に関する分析－  
中堂寿美代（大阪府教育センター），脇本健弘（横浜国立大学），町支大祐（帝京大学），  
麥田葉子（大阪市立喜連西小学校），新坊昌弘（関西外国語大学）
- B14) 文章の感情認識 AI 技術を活用した SNS での文章表現の理解を支援するシステムの開発  
北澤武（東京学芸大学），竹内俊彦（駿河台大学）
- 
- C11) SNS 型 e ポートフォリオシステムを活用した教育臨床経験活動の記録蓄積の試み  
森下孟，谷塚光典（信州大学）
- C12) 介護福祉士の問題発見・解決能力の育成に焦点を当てた高校福祉科の教育内容・方法の考察  
—利用者の個別性に着目して—  
瀬口知子（鹿児島県立開陽高等学校），藤村裕一（鳴門教育大学大学院）
- C13) ワークショップエキスパートのファシリテーション方略  
青木翔子，安斎勇樹（東京大学大学院／株式会社ミミクリデザイン），松尾奈奈（株式会社ミミクリデザイン／東京大学大学院），東南祐美（東京大学大学院／株式会社ミミクリデザイン）
- C14) 自己成長主導性が成人のライフキャリアに及ぼす影響  
廣瀬由美子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学）

- 
- 発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催してきました。討論時間を見確保するために、持ち時間 24 分において質疑応答の時間を 5 分以上は確保していただいております。よろしくご理解願います。
  - 参加費用：参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金（3,000 円）を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として 1,000 円を当日受付にてお支払いください（ただし、本研究会受付時に年間予約購読代金の支払済みが確認できない場合には、当日受付にて年間予約購読分の報告集をお渡しすることができませんのでご了承ください）。また、当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です。なお、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません。
  - 鹿児島市電 2 系統の「工学部前」電停から徒歩 3 分です。詳しくは、鹿児島大学 郡元キャンパスの「交通アクセス」(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/access.html>) をご参照ください。なお、駐車場はございませんので、公共交通機関を利用してお越しください。
  - 昼食等案内：キャンパス内に中央食堂、大学周辺にコンビニエンスストアや飲食店が多数あります。ご都合にあわせて各自ご利用ください。

## 研究会の発表募集 テーマ：高等教育における FD・SD・IR・学修支援/一般

●日 時：2019年7月27日（土）  
 ●申込締切：2019年5月27日（月）17時

●会 場：愛媛大学 城北キャンパス 愛大ミューズ棟 M32・M33教室（担当：仲道雅輝）  
 ●原稿提出：2019年6月24日（月）17時

## ●募集内容：

近年、FD (Faculty Development) や SD (Staff Development) の義務化が規定されるとともに、IR (Institutional Research) により、大学内部のデータ収集・分析をもとに、学修支援や教育の質向上に向けた戦略計画が立案され、実施した施策の効果検証を行うという一連の取り組みが大きく広がってきています。そのような中で、大学全体もしくは教職員個々での数多くの取り組みから、多様な実践事例や成果がもたらされている状況があります。そのような FD・SD・IR・学修支援の取り組みは、すでに黎明期を過ぎ、教育の効果測定なども盛んに行われ、興味深い成果が報告されるようになってきています。

このような状況を背景とし、本研究会では、FD・SD・IR・学修支援に関する研究報告を募集します。また、従来どおり、教育工学一般に関する発表も募集します。

## ●コミュニティ構築企画

○懇親会（7/27）：研究会終了後、コミュニティ構築企画を懇親会宿泊施設（壱湯の守）にて行います。懇親会のみの参加も可能です。ご家族でも安心してご参加いただけます。

○研究ワークショップ（7/28）：学部生・大学院生、現職教員、教育実践者、これから研究者を目指す社会人などを対象に、教育工学研究について議論をするワークショップです。

○会費：5,500円（予定）

○宿泊施設：奥道後温泉 壱湯の守

○宿泊予約：JSET の Web サイトからリンクされた申込ページで、参加申し込みと同時に受付け、会場・宿泊担当が取りまとめて予約いたします。宿泊予約の際には、必ず部屋タイプ（ツインのシングルユースまたはツイン）をご指定下さい。なお、確保している部屋数に限りがございますので、定員になり次第、締め切らせていただきます。壱湯の守での宿泊を希望されない方は、ご自身で松山市近隣のホテルをご予約ください。

●締切日時は“平日17時”です。ご注意ください。

●原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたメールアドレス宛てに発表の採択結果と執筆要項をお送り致します。

●原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で、研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録ください。

なお、期限までにご提出いただけない場合は、自動的に発表取消となりますのでご注意ください。

## ●宿泊施設について

奥道後温泉 壱湯の守 の部屋タイプは、ツインのみのため、ツインのシングルユース、もしくはツインでの利用のみとなります。ツインのシングルユースは 14,190 円（朝食付き、税・入湯税込）、ツイン（2名1室）は一人当たり 10,950 円（朝食付き、税・入湯税込）となります。

## ●送迎について

会場から宿泊施設（壱湯の守）までは無料バスにて送迎いたします。送迎不要の方は、事前にご連絡ください。

## ●問合先

企画担当：早稲田大学 森田裕介

会場・宿泊担当：愛媛大学 仲道 雅輝

jset.kikaku@gmail.com

## 年間予約購読のお勧め

●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,000 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）。研究会の受付でも年間購読を受け付けております。

---

## 研究会の開催報告 ICTを用いた学習環境の構築／一般

●日 時：2019年3月9日

●会 場：福井大学

●発表件数：115件

●参加者数：250名（内非会員 99名）

---

今回の研究会は、「ICTを用いた学習環境の構築」をメインテーマに実施しました。発表件数は一般発表と合わせて、115件と非常に多くの発表が行われました。

研究会では、それぞれの発表に対して質問やアドバイスなども多くあり、活発で有意義な議論が交わされました。また250名もの多くの参加者にお越しいただき盛況に研究会が行えましたが、一部受付が込み合いご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

座長の先生方やご参加された会員・非会員の方々のご協力のもと、3ヶ月期開催の最後の研究会を滞りなく終えることが出来ました。この場を借りて、深く皆様に御礼を申し上げたいと思います。有り難うございました。

担当：岸俊行（福井大学）

---



## 2018 年度 大学教員のための FD 研修会の報告

この研修会は、本学会がこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与することを目的に、2008 年度から実施している。今回は、SIG-01（高等教育・FD）および SIG-07（インストラクショナルデザイン）の共催で、2019 年 03 月 04 日（月）に東京理科大学神楽坂キャンパスで、24 名（大学教員・職員・大学院生）が参加して開催された。研修は 2011 年度から好評を得ている内容を踏襲し、大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）として、「大学授業デザインの方法—1 コマの授業からシラバスまで—」をテーマに実施した。テーマおよび運営方法、実施規模は 2016 年度と同様であった。担当コーディネーターとして、SIG-01 より岩崎千晶・勝又あづさ・根本淳子・松河秀哉・村上正行・渡辺雄貴、SIG-07 より市川尚・甲斐晶子・柴田喜幸・杉浦真由美・高橋暁子・富永敦子が参加した。加えて、監修として鈴木克明、認定ファシリテーターとして上田和子・遠海友紀・竹岡篤永・千葉美保子・野田啓子・宮川幹平・矢島孔明が参加した。

研修のデザインとして、前年度を踏襲して「反転授業」形式の研修としたが、混乱もなく、受講者全員が事前学習を行っていた。ワークショップでは、それぞれが所定のワークシートに要約した授業実践事例を持ち寄り、授業のデザインに関する問題意識の明確化、授業のデザインに関する情報・課題の共有などから議論を始め、「何を誰に教えようとしているのか」、「どんな方法で教えるのか」、「続けたい点・変えたい点は何か」などをペアやグループで議論しながら授業の改善案を考えた。

また昨年度と同様に、FD 研修修了証を受け取った受講者のうち、本学会会員を対象にファシリテーターとしての認定を目指した「ファシリテーター研修」を行なった。ファシリテーター研修には 7 名が参加し、FD 研修と同じ日の午前中に同じ会場で、基本的なファシリテーション技術や、本研修の進行ポイントなどを学んだ。さらに、午後の FD 研修にファシリテーター見習いとして参加し、認定ファシリテーターのアドバイスを受けながらグループワークをモディレートした。

さらに本年度からは、FD 研修会参加者のレポートの添削者としての認定を目指した「添削者研修」を行った。添削者研修には 7 名が参加し、反転授業形式で学んだ。FD 研修会までに e ラーニングで添削に関して学んだ上で、当日は認定ファシリテーターとして参加し、後日には実践的にレポートを添削した。

FD 研修・ファシリテーター研修・添削者研修のいずれも最終レポートが課せられ、合格した参加者には、FD 研修の修了証・ファシリテーターまたは添削者としての認定証がそれぞれ発行される予定である。

参加者に対するアンケートでは、5 段階評価（5=大変よい～1=悪い）ですべての評価項目の平均値は 4 を上回り、高い評価を得られた。

次回は、日程は調整中であるが、関西で開催予定である。詳細が決まり次第、ニュースレターおよび学会ウェブページなどで告知する。その他の地方開催のご要望は、fd-staff@jset.gr.jp までご一報いただきたい。



写真上：ファシリテーター研修（午前）

写真下：FD 研修（午後）

森幹彦（法政大学）

## 『学習科学ハンドブック Webinar』第4,5回開催報告

---

### 【第4回】

- 日時：2019年02月15日（金）18:00-20:00
- 会場：[対面] 東京工業大学 教育革新センター（CITL）セミナー室, [オンライン] Zoom
- 参加者数：計18名（[対面参加] 12名 [オンライン参加] 6名）
- テーマ：身体性と学習科学
- プログラム：「学習におけるタンジブルと身体性のインターフェース」望月俊男（専修大学）  
「身体化と身体化デザイン」鈴木栄幸（茨城大学）

### 【第5回】

- 日時：2019年03月18日（月）18:00-20:00
- 会場：[対面] 専修大学 神田キャンパス 5号館 571教室, [オンライン] Zoom
- 参加者数：計17名（[対面参加] 8名 [オンライン参加] 9名）
- テーマ：テクノロジと学習科学
- プログラム：「バーチャルワールドにおける学び」森田裕介（早稲田大学）  
「モバイルラーニング」北澤武（東京学芸大学）

SIG-06では、『学習科学ハンドブック 第二版』（北大路書房）の各章の翻訳者の先生方を講師にお招きして、各章を解説・紹介するレクチャーと、質疑応答を行うWebinarシリーズを行っています。02月15日（金）の第4回は「身体性と学習科学」をテーマに、続く03月18日（月）の第5回では「テクノロジと学習科学」をテーマにWebinarを開催しました。

第4回前半の「学習におけるタンジブルと身体性のインターフェース」では、本章の背景としてミニコンピュータの時代から教育利用がなされているが、今日のタンジブル・インターフェース（TUI）や身体性のインターフェースの学びへの活用はまだこれからであるとの導入がありました。具体例として、3Dプリンタやレーザーカッターを使ったファブリケーションや組み込みコンピュータ、バーチャルリアリティ（VR）など、物理的な要素と計算機的な要素を組み合わせて学習するアプローチについて、身体的認知の観点から説明がありました。

後半の「身体化と身体化デザイン」では、2つのデバイスを持って上下に動かすと各々の高さの比率の関係によって色が変化するシステムの事例を紹介しながら、身体の動きから抽象概念を学ぶ、あるいは身体と認知を互いに関連付けさせながら学ぶ「身体化のデザイン」のアプローチについて紹介がありました。身体化デザインの特徴は、例えば学習者が手の動きと色の変化の関係に意味付けを行うという構成主義と身体化認知を組み合わせたデザイン思想であり、それを媒介する人工物のデザインが重要となる点などについて説明がありました。

質疑応答では、身体化デザインにおいて具体物を活用することで学習が促されるだけでなく阻害される可能性や、人工物を通じた意味媒介の重要性について活発な議論が行われました。

続く第5回前半の「バーチャルワールドにおける学び」では、Second LifeやSimCityEDUなど、国内外のバーチャルワールド（仮想世界）を活用した学習環境の事例や、バーチャルワールドだけでなく現実世界での学習プロセスも関連づけて分析する方法論である連結エスノグラフィー（Connected Ethnography）の紹介がありました。

後半の「モバイルラーニング」では、学習者の移動性をはじめとしたモバイルラーニングの特性や、一人一台のデバイス配備や生涯学習の必要性といったモバイルラーニングの動機について説明がありました。その後、モバイル端末を活用した国内外の事例紹介を通して、学習する場所がもつ文脈や連続性といった特性を学習に活かすデザインが重要な点などについて説明がありました。

質疑応答では、「バーチャルワールドにおける学び」と「モバイルラーニング」の先行研究には共通する研究テーマや知見がある一方で、その時々のテクノロジーで同じような研究が繰り返されている現状に対して、関連分野の研究者が互いにデザイン原則につながる知見を共有する重要性について議論が行われました。また、モバイルラーニングと公教育の対比や補完関係についても議論がありました。

以上の内容は後日SIG-06 Facebookページ（<https://goo.gl/E2ZSwT>）で公開予定です。すでに公開したビデオはSIGページ（<https://sites.google.com/view/JSETsig06>）からご覧になれます。本Webinarシリーズの第6回は04月22日（月）18:00～20:00（対面会場は東京大学情報学環・福武ホール、オンライン参加用URLは<https://zoom.us/j/497939607>（SIG-05と共に））、第7回は05月10日（金）18:00～20:00、（対面会場は東京工業大学CITL、オンライン参加用URLは<https://zoom.us/j/319639393>）を予定しています。

文責：大浦弘樹（東京工業大学）・北澤武（東京学芸大学）・望月俊男（専修大学）

**SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育 第12回研究会****『新学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育の理論と実践』開催報告**

- 日時：2019年02月17日（日）13:00～17:00
- 会場：常葉大学静岡草薙キャンパス A210 教室
- 参加者数：65名
- テーマ：新学習指導要領におけるメディア・リテラシー教育の理論と実践
- プログラム：

1. 開会・趣旨説明・諸連絡
2. SIG08メンバーによるメディア・リテラシーの先行研究の概観
3. 小学校におけるメディア・リテラシーの模擬授業
4. パネルディスカッション  
「新学習指導要領においてメディア・リテラシー教育をどのように実践するか」
5. 閉会・諸連絡

新学習指導要領では、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として位置づけられました。情報活用能力を育成するためには、ICT活用やプログラミングはもちろんのこと、テレビや新聞などのマスメディア、さらにはソーシャルメディアの活用についても考えていくことが必須となります。そこで、これまでのメディア・リテラシー研究を概観しつつ、メディア・リテラシーの模擬授業や、メディア・リテラシー教育と近接し関連する国語科教育や STEM 教育の立場などから、今後のメディア・リテラシー教育について議論することを目的とする研究会を開催しました。

開会にあたり、SIG 代表として中橋雄（武藏大学）から本 SIG の設置趣旨、これまでの活動について説明しました。その後、今回の研究会の趣旨説明と登壇者の紹介が行われました。

まずメディア・リテラシーの先行研究の概観について、「メディア・リテラシー【教材】に関する先行研究の概観」というタイトルで宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）から報告がありました。メディア・リテラシー教育で利用されている教材の形式、教材の制作主体がどのように分類されるのか、また具体的な教材について紹介した後、メディア・リテラシーの教材開発に関わる代表的な研究成果について取り上げました。次に「教育工学におけるメディア・リテラシーの先行研究：諸外国」というタイトルで森本洋介（弘前大学）から報告がありました。日本教育工学会論文誌および全国大会の発表における先行研究について概観した後、国際的なメディア・リテラシー研究の動向について取り上げました。

次に、模擬授業者：高橋伸明（岡山県笠岡市教育委員会）、コーディネータ：宇治橋祐之から、「動画配信サービスとのつきあい方を考えよう」という内容で、小学校におけるメディア・リテラシーの模擬授業がありました。近年小学生の間でも利用が広がっている TikTok を取り上げ、利用者が動画を投稿したいと思う理由は何なのか、動画がたくさんの人に見られて有名になったとして、よいこと・心配なことは何なのかなどについて考えながら、動画配信をする場合どのように気をつけるのかなどについて話し合いました。そして最後に「動画で表現したいことがあれば、信頼できる大人に見てもらうなどして作り、個人情報が特定される情報は公開しないように気をつける。動画を投稿する場合には、公開範囲を設定して投稿すると、心配が少しやわらぐ。」という学習のまとめがなされました。

最後に「新学習指導要領においてメディア・リテラシー教育をどのように実践するか」というテーマでパネルディスカッションが行われました。情報教育の立場から本 SIG アドバイザーでもある堀田龍也（東北大学大学院）、国語科教育の立場から中村孝一（常葉大学大学院）、理科教育・STEM 教育の立場から小田切真（常葉大学）が話題提供を行い、コーディネータ：佐藤和紀（常葉大学）、指定登壇者：中橋雄によってディスカッションが行われました。堀田氏からはメディア・リテラシーとしての接点やその必要性、教科横断的なカリキュラムでの授業実践の事例について報告がありました。また、中村氏からは国語科教育の立場から、小田切氏からは理科教育の立場からそれぞれメディア・リテラシーとの接点や可能性について、さらに教科教育でどういった場面・単元で実施が可能なのかなどについてご報告いただきました。

今回の研究会は、学校教育現場の先生方、大学院生、学部生、メディア・リテラシーに関わる研究者と様々な立場の方からの参加があり、これからメディア・リテラシーに関する実践や研究に取り組んでいく上で学び多き会になったと考えられます。参加者全員がメディア・リテラシーに関する研究や実践の現状を知り、今後の方向性について深く考える良い機会となりました。

## 『STEM 教育』開催報告

---

- 日時：2019年02月17日（日）10:00～14:00
- 会場：午前の部：東京学芸大学（小金井キャンパス）
- 参加者数：25名
- テーマ：「STEM 教育」
- プログラム：

- 1) 米国における STEM 教育：設立経緯から実践事例まで  
齊藤智樹（国立教育政策研究所）
  - 2) 学校教育における STEM 教育のデザイン：技術科を中心とした教科横断型の学び  
大谷忠（東京学芸大学）
  - 3) インフォーマルな STEM 教育の実践：こども未来研究所の事例  
木村優里（東京学芸大こども未来研究所）
- 

SIG-13 は STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) 教育における教育工学的研究を推進するとともに、エビデンスに基づく知見を蓄積し、科学・技術教育政策への提言などの社会的貢献を目指すことを目的として、2018 年に設立された。本研究会では、第 1 回研究会として日本教育工学会全国大会の SIG セッションに登壇した齊藤智樹（国立教育政策研究所）、大谷忠（東京学芸大学）、インフォーマルな場で STEM 教育を実践している木村優里（東京学芸大こども未来研究所）を招き、STEM 教育に関する情報提供を行った。

まず、齊藤（国立教育政策研究所）が、米国における STEM 教育の設立経緯や実践事例を紹介した。文献調査の成果をもとに、1980 年代から現在の STEM 教育時代にかけて、米国における STEM 教育がどのように成立したのか、特に Engineering の定義にまつわる動向を中心に、詳細な解説がなされた。また、STEM 教育の実践事例として、ワークショップ形式で授業例の紹介や授業内で取り組まれる活動についても紹介された。

次に、大谷（東京学芸大学）が、日本のカリキュラムにおいてどのように STEM 教育をデザインしたらよいのか、理論を踏まえた解説を行った。日本・世界における技術教育の現状を鑑み、学習指導要領の改訂を巡る日本の学校教育の中に、創造的問題解決を中心とした学びとして STEM 教育を位置付けた。そして、Engineering の活動を軸として STEM 関連科目が連携した教科横断型の学びを実現するための多くの提案を行った。

続いて、木村（東京学芸大こども未来研究所）が、NPO 法人として実際に実行しているインフォーマルな STEM 教育の事例を紹介した。東京学芸大こども未来研究所がデザインした STEM 教育の活動実践例について、それぞれの狙いや実際の活動の様子を画像やデータを用いて示した。また、行政や企業等との連携を通して STEM 教育活動が市民に届き、継続・普及してゆく仕組みを紹介した。

最後に、全体討論を行った。今後は、STEM 教育に関する情報交換を行い、また実践を通してエビデンスを収集していくことが課題である、との共通認識を確認し閉会した。



齊藤智樹による講演

大谷忠による講演

木村優里による講演

文責：江草遼平（明治学院大学）

## SIG-02 教師教育・実践研究 第7回研究会 『国際的な文脈で教師教育を考える』開催報告

●日時：2019年03月02日（土）13:30～17:30

●会場：大阪市立大学文化交流センター

●参加者数：10名

●テーマ：「国際的な文脈で教師教育を考える」

●プログラム：

1) "Rethinking Education"から教師教育の方向性を考える 深見俊崇（島根大学）

2) "Teacher Policy Development Guide"の内容説明

Chap.1&2 森久佳（大阪市立大学）

Chap.3 島田希（大阪市立大学）

Chap.4 望月耕太（神奈川大学）

Chap.5 脇本健弘（横浜国立大学）

教職大学院の設置や教員育成指標の策定といった教師教育を巡る様々な改革がなされてきた。日本における教師教育の制度的枠組みが大きく変わりつつあるが、それが望ましい方向に進んでいるのかを吟味する必要があるだろう。本研究会では、「国際的な文脈で教師教育を考える」と題して、UNESCOの2つの報告書から今後求められる教師教育の方向性について議論した。

まず、深見が、"Rethinking Education"を踏まえた話題提供を行った。それは変化が激しく不確実で複雑な世界において、教育のガバナンスにおける人間主義的アプローチの基本原則を描き出したものである、人々が平等な尊厳を持って意義ある人生を送るために必要な能力の開発に、教育は中心的役割を果たし、それを実現するのが学校そして教師である。だが、教職の脱専門職化が進みつつある。各国がその状況を解決するために適切な待遇を保障し、教員養成・研修の内容と目的を"Rethinking Education"の理念に即した形に変えていくよう求めている。

次に、UNESCOが教師に関する政策枠組みとして示した"Teacher Policy Development Guide"を4名の発表者が分担して報告した。第1・2章（森担当）では、「万人のための教育」というビジョンを実現するため、政策立案者が何よりも関心をもち、どの国でも検討されるべきものだと主張していた。とりわけ、本書はエビデンス参照型の政策を志向するものであり、エビデンスはステークホルダー同士の対話のツールとなるものだ。第3章（島田担当）には、教師に関わる政策を検討する際に最も重要な諸側面についての説明があった。望ましいキャリアやコミットメントを伴う教師をいかに教職に迎え入れるか、教師が主体的に学べる専門性開発のための時間と機会の提供が保障されているか等が論点に挙げられた。その中で説明責任についての言及があったが、教育システムにおけるすべての問題について教師への非難に転嫁すべきではないとの主張は日本においても十分考慮すべきだろう。第4章（望月担当）では、制度の立案は衝突や闘争を経てなされるものであり、制度改革には多様な人々の合意が必要とする。それゆえ、制度が機能するためには教員組合の関わりが必須であると言及されているが、日本においては加入率が極めて低くなりつつある。最後に、第5章（脇本担当）は、政策を具現化するための法律や行政システムについて整理したものである。その要点として、改革の中心に児童・生徒と学びを置くこと、専門的なスタッフの能力開発、学校とシステムレベルでのリーダーシップと一貫性の確保、ステークホルダーのエンゲージメントを高めるための適切な対話を終始行うこと、厳格で質の高い政策評価が不可欠となる。

最後に、全体討論を行った。各国で目指す方向性であることを踏まえ、日本においていかにそれを実現していくかをそれぞれの立場で意識しながら歩みを進めることの重要性を確認し閉会した。

本研究会の資料については [http://tfukami.main.jp/home/?page\\_id=1594](http://tfukami.main.jp/home/?page_id=1594) で確認できる。



文責：深見俊崇（島根大学）

## SIG-11 情報教育 第14回研究会

# 『情報教育調査の結果を踏まえた情報教育の方向性について』 開催報告

- 日時：2019年03月09日（土）09:30～11:30
- 会場：山形大学東京サテライト（田町）キャンパス・イノベーションセンター5F  
(〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6)
- 内容：講演と情報教育調査の結果を踏まえた情報教育の方向性についてのディスカッション  
テーマ「若年層における情報行動 一乳幼児の情報機器利用の問題点も合わせて」
- 講演者：橋元良明（東京大学大院情報学環教授）
- コーディネーター・司会：加納寛子（山形大学）
- 参加者：25名

本 SIG-11 では、第1回の研究会で実施した“「情報的な見方・考え方」を育てる情報教育”に関する発達段階に応じたカリキュラム表を完成させるために、実践と議論を重ねてきている。ピアジェの発達段階理論によれば、「感覚運動期」「前操作期」「具体的操作期」「形式的操作期」を通して、スキーマを構築していく。数学教育の分野では、乳幼児段階から数を認識していくスキーマをどのように構築していくのかなど、多数の研究が積み重ねられてきている。しかしながら、情報教育分野に置いて、発達段階に応じたカリキュラムを構築しようとしたときに、乳幼児の情報教育のスキーマがどのように構築されていくのかなど、カリキュラムを構築していく上で必要な研究がほとんどなされていない。ことばの発達もまだ未熟な乳幼児期のスキーマを視覚化することは困難であるため、まずは視覚化しやすい具体的操作段階の子どもたちを対象としたワークショップを実施しながらスキーマの構築プロセスを観察してきた。視覚化が困難な乳幼児段階からの発達段階に応じたカリキュラムの構築を一步前進させるために、橋元良明（東京大学大院情報学環教授）をお招きし、「若年層における情報行動 一乳幼児の情報機器利用の問題点も合わせて」テーマで講演をしていただいた。0歳児からのデジタル機器利用の実態、0～6歳児のスマホ利用の現状から始まり、保護者世代までの現状と問題点についてお話しをいただいた。子守としてスマホが使用される時代である。0歳児からどう発達段階に応じた情報教育のカリキュラムを構築していくのか、多くの知見とともに、多くの課題が見いだされた。

文責：加納寛子（山形大学）



## SIG-13 & SIG-14 合同ワークショップ 『ロボット教材を活用した STEM 教育とプログラミング教育』 開催報告

●日時：2019年03月10日（日）10:00～15:00

●会場：大学連携センター「Fスクエア」(福井市手寄 1-4-1 アオッサ 7階)

●参加者数：26名

●テーマ：ロボット教材を活用した STEM 教育とプログラミング教育

●プログラム：

1. イントロダクション（開会・趣旨説明）
2. 講演：プログラミング教育をどうすすめるか（SIG-14 代表 安藤明伸：宮城教育大学）
3. Scratch 3.0 を使ったプログラミング体験（SIG-14 森秀樹：東京工業大学）
4. STEM 教育紹介（SIG-13 代表 森田裕介：早稲田大学）
5. EV3 を使ったロボット制御体験（SIG-14 森秀樹：東京工業大学）
6. 振り返り

●機材提供：株式会社アフレル

●後援：株式会社アフレル、日本 STEM 教育学会、日本科学教育学会

SIG-13(STEM 教育)と SIG-14(小学校プログラミング教育)の合同ワークショップとして、ロボット教材の活用を題材に、STEM 教育とプログラミング教育の 2 つの視点から検討を行うワークショップを開催しました。

開会・趣旨説明の後、SIG-14 代表の安藤明伸(宮城教育大学)から「プログラミング教育をどうすすめるか」というタイトルでの講演が行われました。プログラミング教育のねらいや教育課程内での位置づけ、プログラミングを教科教育のなかでどのように取り入れるかについて事例を紹介しました。また、本ワークショップを通じて参加者に意識して欲しい事柄として、「自分自身のプログラミング的思考をメタ認知」、「コンピュータの良さを体験」、「自分の担当する子供たちをイメージ」、「物理的なものを動かす意義」を挙げました。続いて、SIG-14 の森秀樹(東京工業大学)がファシリテータとなり、2019 年 1 月にリリースされたマサチューセッツ工科大学メディアラボ開発の Scratch 3.0 を用いて、レゴ® WeDo2.0 および付属のモータとセンサ、micro:bit をプログラミング制御し、工作材料やレゴ® ブロックを組み合わせてつくるコンピュータで動くおもちゃづくりを体験しました。

昼食休憩をはさみ、SIG-13 代表の森田裕介(早稲田大学)から講演「STEM におけるプログラミング」が行われました。STEM 教育全般の紹介に加えて、具体的な事例として First Lego League(FLL)を挙げ、FLL における探究的活動、FLL におけるプログラミングについて紹介しました。その後、FLL での課題解決のためのロボット製作をモチーフに、レゴ® マインドストーム® EV3 を使い、スタート地点からゴールまで決められたゲートを通り、ボールを運ぶロボットづくりコンテストを体験しました。振り返りとして、ワークショップでの体験を参加者全員で共有し、合同ワークショップを終了しました。

本ワークショップで取り上げた教材活用のように、STEM 教育と小学校プログラミング教育では共通する課題があります。今後も SIG 間での合同ワークショップや研究会を通じて、広く両分野の研究、教育、普及活動に貢献したいと考えています。



文責：森秀樹（東京工業大学）

## 『教育・学習支援システムの開発・実践に関する 共同研究創出ワークショップ』開催報告

- 日時：2019年03月10日（日）10:00～17:15
- 会場：福井大学 文京キャンパス総合研究棟V（教育系1号館）1階12講義室
- 参加者数：8名
- テーマ：教育・学習支援システムの開発・実践に関する共同研究創出ワークショップ
- プログラム：
  1. 開会・趣旨説明および教育・学習支援システムの共同研究事例紹介
  2. グループごとに各自の研究紹介および課題の検討
  3. グループごとの共同研究アイディアソンおよびポスター作成
  4. ポスターツアーによる共同研究アイディア発表会およびリフレクション
  5. 閉会・諸連絡

教育・学習支援システム開発の研究遂行には、開発と実践の両輪を動かしていくことが求められます。そのためには教材設計の知識、開発の技術、実践のためのノウハウ、学習記録の分析・評価の知識など様々な知見が必要であり、必ずしも一人で遂行できるものではありません。そこで SIG-03 第11回研究会は、様々な分野の研究者が集まって遂行できる共同研究のアイディアを検討したり、あるいは教育・学習支援システム研究の遂行における課題解決の方法を多角的に検討したりすることを目的として開催しました。

まず SIG 代表として江木啓訓（電気通信大学）から本 SIG の設置趣旨、これまでの活動について説明しました。次に SIG 委員として仲谷佳恵（東京大学）から、今回の研究会の趣旨説明および全体の流れについて説明を行いました。続いて SIG 委員より、本 SIG の研究会をきっかけに発生した教育・学習支援システムの開発や実践に関する共同研究の事例を3件紹介しました。共同研究として成果を生み出すことができた要因について、共同研究者それぞれが各自の専門分野を活かしつつ役割分担を明確にするなど、共同研究の代表者へのインタビューなどから得られたポイントについて説明を行いました。

次に、申し込みの時点で入力頂いたアンケートを元に、参加者には小グループに分かれて頂き、各自研究の紹介や、課題と感じていることなどの共有を行ってもらいました。そして、そこで行った議論を元に、各グループ1つずつ研究案を創出し、その内容をポスターにまとめるアイディアソンを行いました。研究全体のフレームワークから検討されたり、実践知から研究案を積み上げたり、グループによってアプローチが異なった活動をされ、特色のある共同研究案を創出頂きました。

最後に、作成したポスターを使った発表会を実施し、リフレクションを行いました。教育工学の中でも専門が異なる先生方にそれぞれの専門知識・視点から問題提起・議論を頂きました。今後も、参加者自身が研究デザインの検討から論文投稿へ実際にこぎつけるまで、"参加者自身が研究を進める"ための様々な場を提供していきたいと考えています。次回の SIG-03 研究会は、全国大会の翌日 2019年09月09日(月)に名古屋で開催することを計画しています。ご予定頂けると幸いです。

文責：仲谷佳恵（東京大学）



## SIG-04 教育の情報化 第8回ワークショップ・公開授業 『教員養成・教師教育におけるプログラミング教育』開催報告

●日時：2019年03月16日（土）9:20～16:30

●会場：千葉大学教育学部附属小学校

●参加者数：44名

●テーマ：教員養成・教師教育におけるプログラミング教育

●プログラム：

9:20 開始：趣旨説明

9:30 公開授業①（教師教育：学校放送番組を活用したプログラミング授業）

10:30 公開授業②（教員養成：IoT プログラミングツールを活用した授業）

11:15 授業協議会

12:00（昼食）

13:00 ワークショップ（プログラミングに関する教材体験・話題提供、プログラミング授業を実践するために教員養成・教師教育をどう進めるか等について）

16:30 終了

これまで SIG-04 教育の情報化では、どのように情報教育・プログラミング教育を「実践研究」としてまとめることができるのか、本当にそれが現場で実現できるのか等を検討するワークショップを企画していました。また、NHKとの共同研究「ICT 研修ファシリテータ養成講座」では、ICT 活用のための教員研修を設計、実施、評価することができる教員を養成すること目的とした講座を開催していました。以上を踏まえ、2019年03月16日（土）、豊田充崇（和歌山大学）と後藤康志（新潟大学）によるコーディネートで、「教員養成・教師教育におけるプログラミング教育」と題したワークショップを、千葉大学教育学部附属小学校を会場に開催されました。

午前の公開授業では、4年生33名を対象とした授業を行いました。

1時間目は、2017年度「ICT 研修ファシリテータ養成講座」修了生の小池翔太（千葉大学教育学部附属小学校）が、学校放送番組を活用したプログラミング授業を行いました。

2時間目は、小学校理科におけるプログラミング教育について卒業論文研究を行った、学部4年生の磯川祐地（常葉大学）が、IoT プログラミングツールを活用した授業を行いました。

授業協議会では、学校放送番組や IoT プログラミングツールを、どのように授業で活用するか等について、議論を深めました。そして、2020年度から小学校で必修化されるプログラミング教育に対応していくために、教員養成・教師教育においてどのような教育が求められるか、検討していました。

午後のワークショップでは、プログラミングに関する教材体験・話題提供、プログラミング授業を実践するために教員養成・教師教育をどう進めるか等について取り上げました。

まず初めに、プログラミングに関する教材を参加者に体験してもらいました。午前の公開授業で活用した IoT プログラミングツールを始め、マイコンボードやドローン等を授業でどのように活用したかという事例も話題にしながら、教材等を実際に触ってもらいました。

次に、1グループ4名前後に分かれて、プログラミング教育のカリキュラム開発のワークショップを行いました。全ての教員が実践できることを目指し、さらに各学年の系統性を意識したカリキュラムについて考えていきました。実際に小学校で展開されているカリキュラムを参考にして、各グループで作成したカリキュラム案を発表してもらいました。その後、コーディネータからコメントを行い、議論を深めていきました。

最後に、コーディネータから、プログラミング教育の意義と教員養成・教師教育の研修の具体的な内容等について報告を行いました。1日行ってきた公開授業やワークショップの内容を振り返り、教職大学院等で進められているプログラミング教育の教員研修例について、紹介しました。

今回の研究会では、実際の授業で児童の姿を参加者全員で参観した上で、教育工学研究の知見に基づいた議論やワークショップを行うことができる貴重な機会となりました。参加者の所属は、学部学生や民間企業・NPO 法人など多様でしたが、日本教育工学会の研究会が初めてという方も多くいらっしゃいました。今後も教育の情報化に関するワークショップについて、企画・開催していく予定です。



## SIG-08 メディア・リテラシー、メディア教育 第13回研究会 『先行研究の概観と今後の研究課題(3)』開催報告

- 日時：2019年03月30日（土）13:30～15:15
- 会場：同志社中学校・高等学校
- 参加者数：19名
- テーマ：メディア・リテラシーに関する先行研究の概観と今後の研究課題(3)
- プログラム：

1. 開会・趣旨説明
2. 研究発表・研究交流
  - ・「実践研究（中学校教育）に関する先行研究の概観」中村純子（東京学芸大学）
  - ・「実践研究（高等教育）に関する先行研究の概観」土屋祐子（広島経済大学）
  - ・司会：宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）
3. 閉会・諸連絡

SNSなどの普及によるメディア環境の変化や新しい教育課程の実施に伴って、教育工学における「メディア・リテラシー、メディア教育」研究のあり方も問い合わせていく必要があります。そのために、SIGコアメンバーが先行研究の整理と研究課題の提案を行い、参加者と意見交流する研究会を開催しました。まず、司会の宇治橋祐之（NHK放送文化研究所）から、SIGの概要・年間計画についてと、今回の趣旨について説明が行われました。メディア・リテラシーに関する先行研究で扱われてきた「(1) 概念・構成要素」「(2) 能力測定」「(3) 実践研究」「(4) 教材開発」「(5) 教員養成・教師教育・教員支援」「(6) 諸外国の調査」などのテーマのうち、今回の研究会では、「(3) 実践研究」に関するレビューの報告を行うという確認がなされました。

第一発表者の中村純子（東京学芸大学）からは、「実践研究（中学校教育）に関する先行研究の概観」というタイトルで報告が行われました。これまでの日本教育工学会の先行研究には、「メディア機器を活用して学ぶ授業実践」「情報モラルを育む授業実践」に関する先行研究は見受けられるものの、「コードとコンベンション」「オーディエンスとコンテクスト」の概念を踏まえ、クリティカルシンキングを中心的課題とするような実践研究が十分に行われていないことから、今後学会で充実させていくべき研究課題となりうるという提案がなされました。また、国際バカロレアカリキュラムや新しい学習指導要領における国語科の教育実践において、メディア・リテラシーを育むことができる要素があるため、こうした教育実践の研究を行う重要性が指摘されました。

第二発表者の土屋祐子（広島経済大学）からは、「実践研究（高等教育）に関する先行研究の概観」というタイトルの報告が行われました。大学生のメディア・リテラシーに関する研究について、教育工学に限定しない論文データベースで情報を収集すると、絶対数は多くないものの相対的には教育工学に関するものが多く抽出されること、口頭発表や紀要での報告が多く、査読論文や図書は少ないとなどが明らかにされました。実際には、多くのメディア・リテラシーに関する授業実践が展開されているにも関わらず、研究としてまとめられていないことが指摘されました。また、社会構成主義的なメディア論の知見に基づき、メディアの特性による枠組み作用の存在を認識したり、描いたりしていくことができる「メディアフレーム」概念を考え、「創造的な実践」を通じたメディア・リテラシーの育成に関する研究を進めていることが報告されました。

教育工学研究が対象としてきたメディア・リテラシーに関する研究や教育実践に足りないものは何か、これから社会状況・メディア環境・教育現場の状況も踏まえて、今後、どのような研究を充実させることが重要なのか、議論することができました。なお、第13回研究会は、「D-project春の公開研究会2019 in 京都」との共同開催として、そのプログラムの一部にSIG研究会を組み込み実施しました。D-projectは、メディア表現学習を取り入れた授業デザインについて探究している教師コミュニティです。今後も、こうした外部の組織と研究交流を行うことで、領域越境的に研究を進めていきたいと考えています。

文責：中橋雄（武藏大学）



SIG-02 第8回研究会

『学校間ネットワークを基盤とした授業研究の可能性』  
開催案内

- 日時：2019年05月19日（日）09:00～11:55
- 会場：鹿児島大学郡元キャンパス第二講義棟3F 講義室B
- 参加者数：30名程度
- テーマ：「学校間ネットワークを基盤とした授業研究の可能性」

国内・国外ともに、授業研究は、基本的には学校単位での教師の力量形成の舞台や専門的な学習共同体として捉えられてきました。授業研究の動向とは少し異なりますが、ハーバード大学の研究者たちが、医師の回診をモデルとして、学区の教育改善を目指す「指導ラウンド（Instructional Rounds）」というアプローチを開発しました。複数の学校がチームとなって学校の課題を見出し、その改善を目指すアプローチは、授業研究の新たな方向性として今後検討していくべきテーマとなると考えられます。

本研究会では、「指導ラウンド」に関する研究と研修に取り組んできた廣瀬真琴（鹿児島大学）、宮橋小百合（和歌山大学）を講師に迎え、「指導ラウンド」について学んでいきます。

●プログラム：

- 08:30-09:00 受付
- 09:00-09:05 開会・趣旨説明 深見俊崇（島根大学）
- 09:05-10:05 指導ラウンド（Instructional Rounds）とは何か—フレームワークとプロセスの具体について— 廣瀬真琴（鹿児島大学）
- 10:15-11:05 指導ラウンドの視点を踏まえた教員研修の可能性—和歌山県での実践事例— 宮橋小百合（和歌山大学）
- 11:15-11:50 ディスカッション
- 11:50-11:55 閉会行事

- 申込：<https://forms.gle/m5AHPtgKZvt89nN5A> （05月16日まで）

# 日本教育工学会第 17 期第 15 回理事会議事録

日時：平成 31 年 03 月 16 日（土）14:40～17:00

場所：JAPET&CEC 会議室

出席：理事 鈴木克明 会長，加藤浩 副会長，堀田龍也 副会長，美馬のゆり 副会長，稻垣忠，影戸誠，黒田卓，寺嶋浩介，永田智子，姫野完治，光原弘幸，村上正行，室田真男，森田裕介，山内祐平，山田政寛

監事 山西潤一

(合計 17 名)

## 1. 前回の理事評議員会（合同）議事録の承認について

第 17 期第 14 回メール理事会議事録について原案が提示され，承認した。

## 2. 新入会員の承認について

会員の移動状況について報告があり，承認した。2019 年 03 月 16 日現在の総会員数は 3,084 名となつた。

## 3. 各種委員会から

### (1) 編集委員会

論文誌編集進捗状況の報告，合同英文誌の発刊に関する協定書について報告があった。

### (2) 研究会委員会

研究会の開催報告と今後の予定が提示され，承認した。

### (3) 企画委員会

シンポジウム（2019 年 06 月 29 日（土），東京工業大学）案について承認した。夏冬の合宿研究会に代わり，教育工学に興味を持つ学生，実践者，研究者がコミュニティを構築する企画の提案があつた。

### (4) 大会企画委員会

第 35 回全国大会の準備状況について報告があった。全国大会の 2 回化に伴い，次回秋大会を「日本教育工学会 2019 年秋季全国大会」「JSET Autumn Conference 2019」，次回春大会を「日本教育工学会 2020 年春季全国大会」「JSET Spring Conference 2020」とすることを承認した。

### (5) 選挙管理委員会

選挙結果が報告され，承認した。今後，06 月の総会で提案することとなつた。

### (6) 国際交流

MOU 締結に向けた進捗状況，Edu-Port の活動，日中教育工学フォーラムの予定について説明があつた。

### (7) 広報委員会

ニュースレター 234 号の台割について提案があり，承認した。2019 年 10 月以降メールマガジンを発刊する旨の計画，それに向けた新しい委員会体制が示され，承認した。

### (8) SIG 委員会

条件付き認可の SIG に関する再審査の方法とスケジュールが提案され，SIG 継続審査委員会の構成を承認した。

4. 総務・会計

- (1) 名誉会員候補者選考委員会の結果について報告があり、承認した。
- (2) 年度末決算について説明があった。
- (3) 学術大型計画の研究協力について提案があり、承認した。

5. その他

(1)協賛依頼 以下の協賛を承認した。

「2019年度工学教育研究講演会」協賛について（公益財団法人 日本工学教育教会 より）  
平成30年度教育の情報化推進フォーラム講演名義申請依頼（一般社団法人 日本教育情報化振興会  
より）

(2)郵送物を確認した。

(3)今後の理事会日程を確認した。

---

## 新入会員

(2019年01月08日～2019年03月05日)  
8名(正会員：6名、学生会員：2名)

---

正会員(6名)

岩永康之(社会医療法人緑泉会米盛病院)  
林康成(長野県長野市立南部小学校)  
高橋結(公立大学法人宮城大学)  
田中秀幸(西大和学園中学校・高等学校)  
加賀俊哉(株式会社ファインコラボレート研究所)  
長野祐一郎(文京学院大学)

学生会員(2名)

堀田由加里(東京大学大学院)  
雨越康子(京都府立大学大学院)

以上

## ◎学会日誌

2019年

- ・2019年05月18日(土)  
研究会「教育の情報化と授業研究／一般」(鹿児島大学)
- ・2019年09月07日(土)～08日(日)  
第35回全国大会(名古屋国際会議場)
- ・2019年10月19日(土)  
研究会「教育方法・授業改善／一般」(甲南大学)
- ・2019年12月14日(土)  
研究会「情報モラル教育の実践／一般」(東洋英和女学院大学)

## ◎国際会議の案内

2019年

- ・Global Learn 2019  
<https://www.aace.org/conf/glearn/>  
(6/10 - 12, Princeton-Mercer, USA)
- ・EdMedia 2019  
<http://www.aace.org/conf/edmedia/>  
(6/24 - 28, Amsterdam, the Netherlands)
- ・ICBL 2019  
<http://www.aimtech.cityu.edu.hk/icbl2019/>  
(7/2 - 7/4, Hradec Kralove, Czech Republic)
- ・ISET 2019  
<http://www.aimtech.cityu.edu.hk/iset2019/>  
(7/2 - 7/4, Hradec Kralove, Czech Republic)
- ・2019 AECT International Convention  
<https://members.aect.org/events/call/>  
(10/21 - 25, Las Vegas, USA)
- ・E-Learn 2019  
<http://www.aace.org/conf/elearn/>  
(11/4 - 7, New Orleans, USA)
- ・TALE2019  
<http://tale2019.org/>  
(12/10-13, Yogyakarta, Indonesia)

## お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ  
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ  
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ  
大会企画委員会 taikai2019@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催について  
のお問い合わせ  
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニューズレター編集に関するお問い合わせ  
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ  
学会事務局 office@jset.gr.jp

## 広報委員会

- 担当副会長：堀田 龍也(東北大)
- 広報委員長：小柳和喜雄(奈良教育大)
- 広報副委員長：光原 弘幸(徳島大)
- 幹事：深見 俊崇(島根大)
- 幹事：脇本 健弘(横浜国大)
- 委員：石塚 丈晴(福岡工業大学短期大学部)
- 島田 希(大阪市立大)
- 中村 恵(畿央大)

E-mail : kouhou@jset.gr.jp

## 発行所●

日本教育工学会事務局

〒107-0052

東京都港区赤坂1-9-13

三会堂ビル8階

TEL 03-5549-2263

FAX 03-5575-5366

E-mail : office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp>

郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニューズレター

No. 234

2019年5月7日

発行人●会長 鈴木 克明(熊本大)